

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29 年 1 月 18 日			
所属学部・研究科	総合科学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	University of the Philippines Diliman (国名: フィリピン)			
所属学部・学科等名	OUR			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 28 年 8 月 1 日 ~ 平成 28 年 12 月 16 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: student visa			
	ビザ申請先: OSA			
	取得方法, 提出書類: 大学の担当部署で手続き			
	手続きに要した日数: 1 か月			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 28 年 7 月 30 日			
経路	広島→上海→マニラ			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	簡単な学校生活に関するオリエンテーションあり			
帰国年月日	平成 28 年 12 月 31 日			
経路	マニラ→セブ→クアラルンプール→ジャカルタ→クアラルンプール→関空			
2. 留学経費について				
所要経費	総額		円	
	内訳	渡航費		円
		保険料		円
		教科書代(学費)		円
		宿舍費		円
		食費		円
		その他 (費)		円
(費)		円		
(費)		円		
3. 授業について				
28 年 1 学期	8 月 1 日 ~	12 月	16 日	

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	グループディスカッションなどがよく取り入れられているので、予習、復習が必須
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (2人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり 1500peso (現地通貨) 約 3500円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	Wifi はロビーのみで使用可能。 シャワーは温水でない
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> なかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 150,000 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	大学内の病院でさえ、5,000円相当のぼったくりにあったので、事前に相場をリサーチしておくことをお勧めします。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	カットフルーツ以外の路上販売は食べても大丈夫でしょう。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
タクシーのドライバーと口論になり、その後意図的にひかれそうになり、死にかけた。夜はタクシーも注意。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 30年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就活はやらない。 卒業後、フィリピンで起業。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	単位は留学前にしっかりとっておくべき。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
自由な留学スタイル、自分だけの留学スタイルを持つと、よりいっそう充実した留学生活になるでしょう。		

学習の概要に関するレポート

私はこの度8月から12月までの5ヶ月間、フィリピンのU.P.Diliman 大学で交換留学をしてきました。CD100, SW122, Comm100 の3つの授業を履修しました。CD100 (Community Development) は地域開発に関する授業で、フィリピンに数多くあるコミュニティーの形成に関して学習し、フィールドワークも行いました。特にスラム地域への校外学習は印象的で、フィリピン人教授とだからこそ踏み入ることができる地域に入り、スラムに住む方のお話が聞けたので、貴重な経験となりました。普段は教授による英語での講義が中心で、授業前の課題図書や文献を読むことで、インプットを増やし、授業中にディスカッション形式を取り入れながら、文献を参考に、批判的に物事を考える訓練をしました。ディスカッションでは一人一人が発表するよう求められるので、必ず、予習、復習が必要でありました。日本人留学生が10人ほどおり、日本とフィリピンの現状を比べることで深い討論ができました。教授が英語をつくよう努力してくださったのが助かりました。

SW122 (Social Work) はソーシャルワークの授業で、フィリピンの貧困の現状について、講義、ディスカッションを行いました。フィリピンに新大統領ドゥテルテ氏が誕生したことで、ドゥテルテ大統領と以前の大統領を比較するようなディスカッションが多く、大変面白みのある授業でした。しかし、先生が英語ではなく、タガログ語を話しました。なので、最初は戸惑いましたが、心優しいクラスメートが毎回通訳をしてくれて助かりました。この授業もフィールドワークを行うことができ、講義で学んだことを、実地でアウトプットすることができるので大変充実した講義でした。フィリピンの大学では、現地語であるタガログ語を使い、英語を話さない教授もいるので、事前情報を頼りに授業選択をしなければなりません。

Comm100 (Mass Communication) はマスコミの授業で、フィリピンのラジオ、映画、テレビなどのマスコミの歴史を勉強しました。これからのマスメディアを考える上で、フィリピンの歴史を考えることは欠かせませんでした。この授業では、グループごとのパワーポイントによる発表が毎回行われました。生徒による発表には毎回感心させられました。というのも、彼らのプレゼンテーションは手の込んだものが多く、見ていて飽きないものばかりでした。また、シャイな日本人と違い、陽気なフィリピン人は、声だけでなく、身振り手振りをつけて発表していました。

フィリピンの東大と呼ばれる、フィリピン大学の生徒は総合的に見て、素晴らしい人ばかりでした。授業中、彼らは流暢に英語を話し、物怖じせずに積極的に発言し、刺激的な授業でした。日本との違いをまじまじと感ずることができ、自分にも変化が出てきました。恥ずかしがることなく英語での発言ができるようになりました。

HUSA 交換留学プログラムだからこそできる、フィリピンの東大での勉学。素晴らしい時を過ごすことができました。

生活の概要に関するレポート

「衣」に関して

私は普段から半袖半ズボン、サンダルの、THE フィリピンローカルスタイルで生活していました。大学での講義もその服装で出席していましたが、特に他の学生と変わっているというようなことはありませんでした。12月に入ると、夜が冷え込んだので長袖を着ている人もたくさん見かけました。フィリピンは一年中夏なので、特に服装に大きな変化はありません。

「食」に関して

フィリピンの食事は大きく分けて2つあります。一つは格安フード、もう一つは少し高めのレストランでのフードです。格安フードといえば、学内食堂の食事、家族経営の小規模食堂、屋台などのストリートフードなどがあります。少し高めのレストランといえば、日本食レストラン、ショッピングセンター内のファーストフード店、チェーン店などがあります。

私は基本的に、毎食150円未満の食事を取ることが多く、毎日の食費は1000円いかないくらいでした。それでもたらふく食べることができるのがフィリピンです。食の安全性についてなんですが、路上で販売されているカットフルーツ以外は特に問題ないと言えるでしょう。

「住」に関して

私は学内にある、留学生用の寮で生活していました。新しい寮であったにもかかわらず、シャワーやトイレの水が出ないトラブルなどが相次ぎました。wifiは一階の共有スペースであるロビーでしか使うことができず、各自でポケットwifiを購入して室内で使っていました。3人部屋で、フィリピン人教授とアメリカ人との相部屋でした。寮にはキッチンはありません。部屋は十分な広さです。ロビーで各国の学生と交流することができるのは、寮に住むことのメリットではないでしょうか。私自身、たくさんの国々の人と交流することができました。週3日間のみ、フィリピン人の一般家庭でホームステイもしました。ここでは、フィリピンの習慣、文化、考え方、人の優しさなどに触れることができるので、ホームステイは本当にオススメです。

「課外活動」に関して

周りの留学生は、貧困問題に取り組むNGOに参加してみたりする人が多かったように思います。私は個人的に、小学校と中学校訪問、サリサリストアの経営を行いました。小学校、中学校には自分で連絡を取り、授業参観、生徒・先生へのインタビューの許可を得ました。週一回の頻度で、訪問し、フィリピンの教育現場を感じることができました。サリサリストアは日本でいうコンビニのようなもので、地域に密着したお店です。お菓子や生活用品などを扱います。フィリピン人と協力し、1から開業しました。

まとめ

フィリピン留学は、衣食住や語学の問題などの壁がある方もいらっしゃると思いますが、それをクリアすることができれば、自分で留学スタイルを作り出すことができるので、かなりオススメです。自分は勉強だけでなく、学校訪問やサリサリストアの経営など、日本ではできない経験ができたのでフィリピンを選んでよかったと思っています。



